

2022年3月期 第1四半期 決算説明資料

- | | |
|-----------------------|------------------------------------|
| 1) 決算概要 | 6) トピックス |
| 2) 決算のポイント | 7) 減価償却費と研究開発費 |
| 3) 国内売上高 | 8) 上期・通期業績見通し |
| 4) 海外売上高 | 9) 業績見通し 修正のポイント |
| 5) 商品群別売上高
[参考] 内訳 | [参考] 商品群別売上高・地域別海外売上高
見通し/為替の影響 |



日本光電工業株式会社

銘柄コード: 6849

2021年8月4日

1) 決算概要

	2021/3 第1四半期	2022/3 第1四半期	増減率 (%)	(単位:百万円、単位未満切捨て)
売上高	38,461	47,182	22.7	
国内売上高	24,809	29,364	18.4	
海外売上高	13,652	17,817	30.5	← 為替影響除く: +28%
売上総利益 (売上総利益率)	19,428 50.5%	24,565 52.1%	26.4	← 自社品 売上比率: 2021/3 Q1 68.7% → 2022/3 Q1 72.0%
営業利益 (営業利益率)	1,831 4.8%	6,423 13.6%	250.8	← 販管費率: 45.7% → 38.5%
経常利益	1,581	6,743	326.5	← 為替差損益: 差損4.3億円 → 差益2.0億円
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,060	4,537	327.8	

平均レート	(2020/6)	(2021/6)
1米ドル	107.9円	108.9円
1ユーロ	118.1円	131.5円

- 売上高は22.7%増の471億円となりました。
- 国内売上高は、感染拡大により検査・手術件数が減少した前年同期に比べ、一部製品の需要が回復したほか、予算執行が延期・凍結となっていたITシステム商談が回復したことから、18.4%増の293億円となりました。政府予算を背景とした生体情報モニタ等の整備も継続しました。
- 海外売上高は、全ての州で増収となり、30.5%増の178億円、現地通貨ベースでは28%の増加となりました。シェア拡大に注力する米国における生体情報モニタの大口商談が売上をけん引しました。前年同期に低調だった一部製品の需要回復に加え、感染再拡大の地域において、生体情報モニタ等の需要が増加しました。
- 営業利益は、増収効果に加え、商品構成の良化により粗利率が改善したことから、64億円と大幅な増益となりました。粗利率は、自社品比率が上昇したことから、52.1%となりました。
- 社内計画に対しましては、売上高は、消耗品等の堅調な需要回復に加え、コロナ関連の需要が継続したことから、国内、海外ともに上回りました。営業利益につきましても、粗利率の良化も寄与し、計画を大きく上回りました。このため、上期、通期の見通しを修正しました。

2) 決算のポイント

売上高：前年同期比 22.7%増

- 国内：二桁成長。検査・手術件数が減少した前年同期に比べ一部製品の需要が回復。予算執行が延期・凍結となっていたITシステム商談が再開。政府予算を背景とした生体情報モニタ等の整備も継続。
- 海外：全ての地域で増収。米州、アジア州他が二桁成長。

営業利益：前年同期比 250.8%増

- 増収効果に加え、売上構成の良化により粗利率が改善したことから、大幅増益を達成。

経常利益：前年同期比 326.5%増

- 為替差損益が差益に転じる。

3) 国内売上高



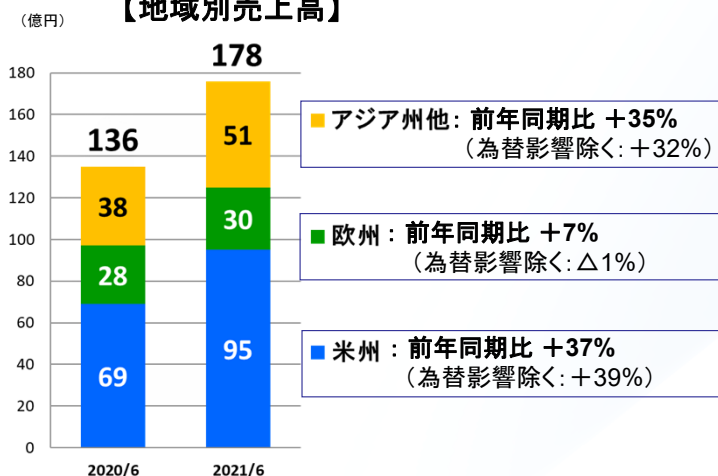
【市場別】 感染拡大により検査・手術件数が減少した前年同期に比べ一部製品の需要が回復、予算執行が延期・凍結となっていたITシステム商談が再開し、全ての市場で増収。官公立病院、私立病院市場は、政府予算を背景とした生体情報モニタ等の整備もあり、大幅増収。

【商品群別】 **生体計測機器:** 診断情報システム、心電計群、脳神経系群が二桁増収。心臓カテーテル検査装置群も堅調に推移。
生体情報モニタ: ベッドサイドモニタ、送信機、臨床情報システムが大幅増収。センサ類など消耗品も好調に推移。
治療機器: AED、除細動器が好調に推移。人工呼吸器は前年同期の需要急増の反動により減収。
その他: 自社品販売の注力により、現地仕入品が減収。

- 国内売上高は、45億円増の293億円となりました。大幅な増収となりましたが、前年同期において、営業・サービス活動の自粛や検査・手術の延期、買い控えなどの影響によるマイナス影響が15億円程度ありました。検査・手術件数の回復により一部製品の需要が戻ってきたことや、ITシステム商談の再開が売上増加に寄与しました。政府予算を背景としたコロナ関連の需要は15億円程度あったと見ています。
- 市場別では、全ての市場で増収となりました。官公立病院、私立病院市場は、政府予算を背景とした生体情報モニタ等の整備もあり、大幅増収となりました。大学、診療所市場も好調に推移しました。
- 生体情報モニタ、治療機器、生体計測機器が二桁成長を遂げた一方、その他商品群は減収となりました。
- 生体計測機器では、需要の回復や商談の再開により、診断情報システム、心電計群、脳神経系群が二桁増となりました。心臓カテーテル検査装置群も、検査・手術件数の回復に伴い、堅調に推移しました。
- 生体情報モニタでは、前年同期が減収だった反動に加え、感染症患者の受け入れ対応もあり、ベッドサイドモニタ、送信機が大幅増収となりました。臨床情報システムも商談が再開し、好調に推移しました。センサ類など消耗品も、検査・手術件数の回復に伴い、好調に推移しました。
- 治療機器では、AED、除細動器が好調に推移しました。人工呼吸器は、政府予算を背景に一部で整備が継続しているものの、前年同期に感染拡大の影響で需要が急増した反動により減収となりました。
- その他商品群は、自社品販売の注力により、現地仕入品が減収となりました。

4) 海外売上高

【地域別売上高】



【海外売上高比率】

	2021/3 第1四半期	2022/3 第1四半期
海外売上高比率	35.5%	37.8%

【商品群別売上高】

(単位: 百万円)

商品群	2021/3 第1四半期	2022/3 第1四半期	増減率 (%)
生体計測機器	1,698	2,179	28.3
生体情報モニタ	7,650	10,075	31.7
治療機器	3,163	4,035	27.6
その他	1,139	1,526	34.0
売上高合計	13,652	17,817	30.5

為替影響除く: +28%

【地域別】 米州: 米国は、生体情報モニタの大口商談が売上をけん引し二桁成長。中南米では、ブラジル、ペルーを中心に売上が倍増。欧州: 大幅増収となった前年同期の反動から現地通貨ベースで減収も、円ベースでは増収。アジア州他: 感染再拡大によりインド、タイでの売上が倍増。中国も好調に推移。

【商品群別】 生体計測機器: 脳神経系群が米国、中国で回復、欧州で好調に推移。心電計群は米州、欧州で増収。生体情報モニタ: 米国が大幅増収。インド、中南米で売上が倍増。欧州、中国、中近東は前年同期の需要急増の反動により減収。治療機器: 全ての地域でAEDが回復、除細動器も好調に推移。人工呼吸器は前年同期の需要急増の反動により減収。その他: 全ての地域で血球計数器・試薬が回復。

- 海外売上高は42億円増の178億円、現地通貨ベースでは28%増加しました。海外売上高比率は37.8%に上昇しました。米国での生体情報モニタの大口商談が売上をけん引しました。
- 米州では、米国が二桁成長となりました。中南米では、感染再拡大により、ブラジル、ペルーを中心に売上が倍増しました。
- 欧州では、大幅増収となった前年同期の反動から現地通貨ベースでは減収となりましたが、円ベースでは増収となりました。
- アジア州他では、感染再拡大により、インド、タイでの売上が倍増しました。中国も、現地通貨ベース、円ベースともに二桁成長となりました。中国は前年同期にコロナ関連の需要が急増しましたが、現在は通常の購買活動に戻っています。前年同期に需要が急増した生体情報モニタや除細動器、心電計で反動はありましたが、脳波計やAEDの需要が回復しました。中国は12月決算であり、上期も現地通貨ベース、円ベースともに二桁成長となる見通しです。
- 全ての商品群で二桁成長となりました。コロナの影響で前年同期に低調だったAED、脳波計、血球計数器・試薬の需要が全ての地域で回復しました。生体情報モニタは、米国の大口商談が売上をけん引しました。コロナ関連の需要は、生体情報モニタ、除細動器、人工呼吸器で20億円程度あったと見ています。感染再拡大の地域で生体情報モニタ、除細動器の需要が増加しました。人工呼吸器も一部地域で需要はあるものの、前年同期に需要が急増した反動により減収となりました。

5) 商品群別売上高

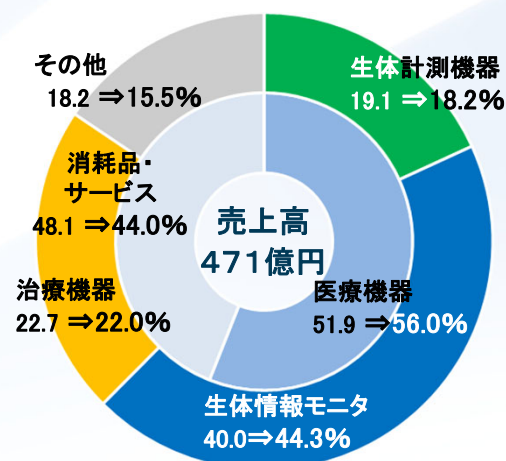
(単位:百万円)

	2021/3 第1四半期	2022/3 第1四半期	増減率 (%)
生体計測機器	7,342	8,571	16.7
生体情報モニタ	15,382	20,903	35.9
治療機器	8,714	10,358	18.9
その他	7,021	7,349	4.7
売上高合計	38,461	47,182	22.7

(ご参考)

消耗品・サービス	18,502	20,760	12.2
----------	--------	--------	------

商品群別売上構成比
(2020/6 ⇒ 2021/6)



- 生体計測機器は前期比16.7%増の85億円、生体情報モニタは35.9%増の209億円、治療機器は18.9%増の103億円、その他は4.7%増の73億円となりました。
- 消耗品・サービスは前年同期から検査・手術件数が回復し、12.2%増の207億円となりました。また、前年同期はサービス活動の自粛によるマイナス影響がありましたが、当第1四半期は医療機器の設置工事・保守サービスも好調に推移しました。

[参考] 商品群別売上高の内訳

(単位:億円、単位未満切捨て)

生体計測機器	2021/3 第1四半期	2022/3 第1四半期
脳神経系群	11	15
心電計群	13	15
心臓カテーテル検査装置群	30	32
その他(診断情報システム等)※	17	22

※診断情報システムや他社製の生体計測機器を含みます。

その他	2021/3 第1四半期	2022/3 第1四半期
検体検査装置	21	22
画像診断装置、研究用機器他※	48	50

※他の商品群に分類されない、消耗品や設置工事・保守サービスを含みます。

治療機器	2021/3 第1四半期	2022/3 第1四半期
医科向け除細動器	12	20
A E D	30	41
ペースメーカー・ICD	6	6
人工呼吸器	24	15
その他	12	18

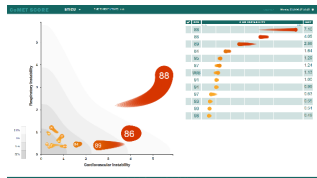
- 生体計測機器を中心に需要が回復したほか、除細動器、AEDも好調に推移しました。人工呼吸器は、より感染力の強い変異株の感染拡大もあり、一定程度の需要が継続しているものの、前年同期に感染拡大の影響で需要が急増したことの反動を受け、減収となりました。

6) トピックス - 米国生体情報モニタリング事業

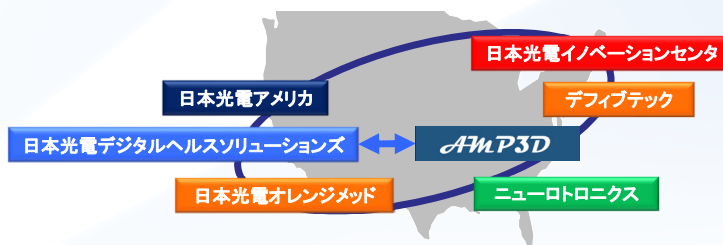
米国AMP3D(アンプスリーディ)社を買収

- 本社: 米国バージニア州
- 設立: 2013年
- 代表者: ケビン・パサレロ氏(社長兼CEO)
- 事業内容: 患者容態管理のためのアルゴリズム・ソフトウェアの研究開発

- 当社のDHS(デジタルヘルスソリューション)構想と高い親和性
- 現地開発体制を強化



CoMET®
Continuous Monitoring
of Event Trajectories



中位機種ベッドサイドモニタのFDA承認取得

2021年7月
FDA承認取得

2021年度下期
発売予定



CSM-1500/1700シリーズ

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

NIHON KOHDEN

7

- 2020年4月に米国事業本部を立ち上げ、日本光電アメリカ、デフィブテック、日本光電オレンジメッドなどの子会社間の連携を進めています。
- 2021年4月に社名変更した日本光電デジタルヘルスソリューションズでは、中期経営計画の中で新規事業に位置付けたデジタルヘルスソリューションの開発に注力しています。DHS構想をより一層強化、推進することを目的として、米国のAMP3D社を買収することを決定しました。AMP3D社は、米国の臨床現場に根差した専門的かつ豊富な知識を有しており、患者さんの状態や容態を把握するための計算アルゴリズムやソフトウェアの技術開発を行っています。
当社が推進するDHS構想とAMP3D社のソフトウェアには高い親和性があり、この分野における技術開発力の強化を期待しています。また、米国では、患者さんの生体情報や医療機器の情報を活用した容態変化の予知・予測といった先駆的な研究が行われていることから、現地開発体制の強化、先端開発研究機関との連携強化が期待できます。
- 2021年7月には中位機種ベッドサイドモニタ CSM-1500/1700シリーズのFDA承認を取得しました。予定どおり、下期に投入を予定しています。本製品の投入により、サイバーセキュリティが強化され、大規模ネットワークシステムに対応した当社のモニタリングソリューションのさらなる価値向上、商談機会の獲得につながると期待しています。

7) 減価償却費と研究開発費

(単位:百万円)

	2021/3 第1四半期	2022/3 第1四半期	増減額	2021/3 実績	2022/3 計画
減価償却費	722	756	33	3,236	3,800
研究開発費	1,464	1,324	△ 139	6,357	6,600
			設備投資額	3,524	4,100

●2022/3設備投資計画

新製品の「型」、計測器・治具、販促用製品、IT投資、工場生産設備

- 減価償却費は7億円となりました。計画どおりの進捗です。通期の減価償却費は38億円、設備投資は41億円に変更ありません。
- 研究開発費は1億円減の13億円となりました。一部の開発で進捗に遅れが生じているものもありますが、第2四半期以降は、米国の日本光電デジタルヘルスソリューションズ、AMP3D社とともに、DHS関連の開発を加速させる予定です。

8) 上期・通期業績見通し

	2021/3 実績		2022/3 予想						(単位: 億円)	
	上期	通期	期初	上期		増減率 (%)	期初	通期		
				8月4日修正	増減率 (%)			8月4日修正		増減率 (%)
売上高	872	1,997	885	960	10.0	1,855	1,905	△ 4.6		
国内売上高	562	1,372	—	—	—	1,280	1,305	△ 4.9		
海外売上高	309	624	—	—	—	575	600	△ 3.9		
売上総利益 (売上総利益率)	443 50.8%	1,022 51.2%	—	—	—	921 49.6%	957 50.2%	△ 6.4		
営業利益 (営業利益率)	87 10.0%	270 13.6%	65 7.3%	110 11.5%	25.6	160 8.6%	180 9.4%	△ 33.6		
経常利益	82	283	65	110	33.9	160	180	△ 36.6		
親会社株主に帰属する 当期純利益	58	182	45	75	28.7	110	120	△ 34.2		
海外売上高比率	35.5%	31.3%				31.0%	31.5%			

為替影響除く: △5%

※第2四半期以降の前提為替レートは、107円/米ドル、127円/ユーロです。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

NIHON KOHDEN

9

- 第1四半期の実績および最近の業績動向を踏まえ、上期および通期の業績予想を修正しました。為替が当初の想定よりも円安に推移していることも反映しています。
- 上期売上高は、960億円となる見通しです。国内、海外ともに期初の想定を上回り、どちらも10%前後の増収と見ています。一方で、下期は、国内、海外ともに前年同期に需要が拡大した反動で減収となる見通しです。
- 国内では、検査・手術件数の回復やITシステム商談の再開により、医療機器、消耗品・サービスともに想定を上回る見通しです。また、2021年9月末までは、政府予算を背景とした医療機器の整備が継続する見込みです。
- 海外では、注力する米国および中国が引き続き堅調に推移するほか、アジアなどの感染が再拡大する地域において、感染症患者に対応するための医療機器の整備が進むと見ています。
- 通期の売上高は1,905億円、営業利益、経常利益は180億円、純利益は120億円を見込んでいます。利益につきましても、売上高が期初予想を上回る見込みのため、上方修正しました。粗利率は、売上構成の良化により期初の想定を上回ると見ています。コロナの感染再拡大や部品供給のひっ迫などの不確定要素もあるため、業績予想の修正の必要が生じた場合には速やかに開示します。

9) 業績見直し 修正のポイント

通期売上高 (前回予想から 50億円増)	国内売上高 (同25億円増)	<ul style="list-style-type: none">検査・手術件数の回復やITシステム商談の再開により、医療機器、消耗品・サービスともに想定を上回る見直し9月末まで政府予算を背景とした医療機器の整備が継続する見込み
	海外売上高 (同25億円増)	<ul style="list-style-type: none">注力する米国・中国が引き続き堅調に推移する見直し感染再拡大の地域において、COVID-19に対応するための医療機器の整備が進む見込み通期の為替レート的前提を円安方向に見直し (1米ドル:105円⇒108円、1ユーロ:125円⇒128円)
営業利益・経常利益 (同20億円増) 親会社株主に帰属する 当期純利益 (同10億円増)	<ul style="list-style-type: none">売上高が期初予想を上回る見込みのため、上方修正売上構成の良化により、粗利率も期初の想定を上回る見込み	

※ COVID-19感染再拡大や部品供給のひっ迫などの不確定要素もあり、業績予想の修正の必要が生じた場合には速やかに開示します。

[参考] 商品群別売上高・地域別海外売上高見通し / 為替の影響

(単位:百万円)

	2021/3 実績	2022/3予想		増減率 (%)		2021/3 実績	2022/3予想		増減率 (%)	
		期初	8月4日修正				構成比(%)	期初		8月4日修正
生体計測機器	37,586	40,700	40,900	21.5	8.8	米州	30,288	29,000	29,800	△ 1.6
生体情報モニタ	78,818	70,900	74,300	39.0	△ 5.7	欧州	13,139	9,500	9,600	△ 26.9
治療機器	45,126	36,100	37,150	19.5	△ 17.7	アジア州他	19,024	19,000	20,600	8.3
その他	38,196	37,800	38,150	20.0	△ 0.1	海外計	62,452	57,500	60,000	△ 3.9
売上高合計	199,727	185,500	190,500	100.0	△ 4.6					為替影響除く: △5%

(ご参考)

消耗品・サービス	85,890	87,200	89,700	47.1	4.4
----------	--------	--------	--------	------	-----

平均レート

	2021/3 実績	2022/3 予想
1 米ドル	105.9円	108円
1 ユーロ	123.1円	128円

為替感応度の概算値(年間)

	売上高	営業利益
米ドル	3.6億円	1.0億円
ユーロ	0.6億円	0.2億円

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

NIHON KOHDEN

11

- 商品群別売上高の見通しにつきましては、第1四半期の実績や最近の業績動向を踏まえ修正しました。生体情報モニタや除細動器、AED、人工呼吸器を中心に、期初の想定を上回る見通しです。消耗品・サービスについても、検査・手術件数の回復により増加すると見えています。
- 地域別海外売上高の見通しにつきましても、為替の前提を見直すとともに、中南米やインドなどでの感染再拡大に伴うコロナ関連の需要を反映しました。アジア州他は、期初の時点で減収と見ていましたが、増収となる見通しです。

この資料に記載されている業績予想数値は、当社および当社グループ会社の事業に関連する業界の動向、国内外の経済情勢、各種通貨間の為替レートの変動など、業績に影響を与える要因についての現時点で入手可能な情報を基にした見通しを前提としております。同数値は、市況、競争状況、新商品導入の成否など多くの不確実な要因の影響を受けます。従って、実際の業績は、この資料に記載されている予想とは大きく異なる場合がありますことをご承知おきください。

【担当部署】経営戦略統括部

【連絡先】TEL03-5996-8003